



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 219  
June  
2011

## トピックス

### 関係機関との 防災協力推進

専門家会合「東日本大震災からの創造的復興に向けて」の結果

### ADRCスタッフ紹介

杉浦正美 主任研究員

### Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2011

### ●関係機関との防災協力推進

#### 専門家会合「東日本大震災からの創造的復興に向けて」の結果

2011年3月11日、東北地方の太平洋沿岸地域においてかつてないほどの大規模な地震と津波が発生しました。地震の規模はマグニチュード9.0、これは過去の世界で発生した災害としても4番目に大きなものとなりました。さらに、この地震によって引き起こされた津波は、多くの町や村を襲って、たくさんの死者及び行方不明者をもたらしました。災害発生から3カ月以上が経過し、復興活動が行われていますが、被災地の再建は多くの時間が必要とされます。

平成23年5月31日、財団法人都市防災研究所アジア防災センターは、世界銀行東京事務所東京開発ラーニングセンターにおいて、国際復興支援プラットフォーム、国連人間居住計画、国連アジア太平洋経済社会委員会、国連防災戦略事務局、世界銀行、内閣府、国土交通省、兵庫県とともに専門家会合「東日本大震災からの創造的復興に向けて」を開催いたしました。

専門家会合にはにおいては、傍聴も含めて約70名が参加しました。本会合においては、東日本大震災からの創造的復興のために世界の大災害から得られた貴重な経験・教訓が如何に役立てられるか、また、我が国の未曾有の大災害から得られる貴重な経験・教訓を今後の世界の防災へ如何に活かすかという二つのテーマを設定しました。次に示すプログラムの通り、国際機関（国連諸機関、世界銀行等）や各国政府（アメリカ、インドネシア、中国、パキスタン、フィジー）の専門家、日本の各専門家が発表や意見交換を行いました。

なお本専門家会合に先立ち、5月29日～30日にかけて、約20名の専門家が宮城県の名取市や南三陸町など東日本大震災の被災地を視察しました。この視察においては、佐藤南三陸町長の時間を頂戴し被災地の状況等を説明していただきました。

被災地視察(南三陸町)



#### 【プログラム概要】

- 開会
- 発表

第1部 東日本大震災への対応と課題

「津波被害の全体像」

「住民、マスメディア、政府、NPO、の対応」 「社会経済学的な影

**続き**

響」 「復興におけるコミュニティレベルにおける再生の重要性」

**第2部 海外の大災害の経験・教訓の共有**

「復興ガイダンスノートの紹介」 「インド洋津波、ハリケーン・カトリーナ、四川大地震からの教訓」

- 意見交換
- 閉会



専門家会合

現在、被災地は応急対応から本格的な復旧・復興に移行している。このような時期において、防災に関わる国際機関や海外の専門家による現地調査は意義のあるものであった。また、海外および国内の専門家による会合を通じて、貴重な情報交換・意見交換を行れたことで、今後の世界の防災活動における海外と日本の連携の深化が期待されています。

**●ADRCスタッフ紹介 No. 42****杉浦 正美 主任研究員**

本年6月1日より、アジア航測株式会社より赴任しました杉浦正美です。

30年来、河川・砂防事業を中心とした調査・計画のコンサルティングを経験して参りました。とくに、阪神大震災以降は、都市防災部門にて、地域防災計画を軸とした調査・計画事業への対応を全国的に行って参りました。また最近では、地震・津波・洪水・土砂災害などの自然災害を対象としたハザードマップの作成や、地域住民へのワークショップ、図上訓練の開催支援なども数多く実施して参りました。大災害発生後の被災状況調査では、阪神大震災、雲仙普賢岳や三宅島の噴火災害などで調査経験があります。また、先日は概況調査のために震災間もない岩手県宮古市を訪れました。

ADRCでは、主任研究員として、前任者の業務を引き継いだ上、今後、新しいプロジェクトにも取り組んでいきます。これまで仕事の中心であった国内から、アジア地域を中心とした海外へ拡がり、自分にとっては未知の領域ではありますが、これまで培ってきた防災技術が、新たな舞台で活かすことができればと思っております。未曾有の震災直後の赴任となり、これも何か大切な巡り合わせのようにも感じております。不慣れな点多々ありますが、よろしくお願ひします。

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。